

今日からできること

今日からできる「3つのはじめかた」

環境の取組は、力んで一気に変えるよりも、長く続く形で積み重ねることが大切です。この計画も、市民・市民団体・事業者・行政(市役所)がそれぞれの役割で取組を積み重ねていくことが前提になっています。ここでは、市民の皆さんに向けて、始めやすい3つの方向をご紹介します。

① まずは「今できていること」を確実に

市民意識調査では、ごみの分別やエコバッグ、冷暖房の適切な温度設定などについて、すでに多くの方が実践していることが分かりました。まずはこの土台を、家族や周囲と一緒に習慣として続けることが大切です。

さらに一歩進めるなら、食品ロスを減らす(買すぎない・使い切る)など、暮らしの中で結果が見えやすいところから始めるのがおすすめです。

② まちの環境を自分の暮らしの近くで守る

多摩川・野川、深大寺・佐須地域、近所の公園など、調布市の魅力は皆さんの身近なところにあります。散歩のついでに季節の変化に目を向ける、雨の降り方や暑さの変化に気づく、地域の清掃・美化に参加する。そんな小さな関わりが、まちの環境の力を底上げします。

「守る」は特別なことではありません。気づく、参加する、続ける、その繰り返しです。

③ 一人で抱えず「つながって」参加する

「参加したいけれど時間がない」「一人だと不安」という声が多いことも分かります。だから参加の形は、もっと気軽に大丈夫です。

- ・身近な場所(家、勤務先や学校・公民館など)で
 - ・自分に合った時間帯で
 - ・初めてでも入りやすい雰囲気です
- こうした条件がそろえば、参加のハードルは下がります。まずは「見学だけ」「短時間だけ」でも十分です。



やってみましょう！

身近でできることを選び、できる範囲で続けてみてください。小さな行動の積み重ねが、まち全体の変化につながります。

- ごみの分別をします
- エコバッグを持参します
- 食品ロスを減らします
- 使い捨てプラスチックを減らします
- 省エネ家電やLEDを選びます
- エアコンは適切な温度にします
- 節水を意識します
- 再エネ電力・太陽光パネルの設置を検討します
- 雨水浸透・雨水貯留に協力します
- 水辺や緑を守る活動に参加します
- 市の環境情報をチェックします
- 学びやイベントに参加します

調布市環境基本計画
ニュースレター一覧

- ① 策定編
- ② 水と緑編
- ③ 脱炭素編
- ④ 資源循環・生活環境編
- ⑤ 市民協働編

調布市環境基本計画についての詳しいことは、こちらの二次元コードからご覧ください

調布市環境基本計画 ニュースレター

① 策定編

調布市環境部環境政策課 作成

目次	【トピックス】	新しい「環境基本計画」の期間が始まりました	p.1
	【計画の全体像】	環境基本計画は全体の地図です	p.2
	【市民の意見→反映→できること】	市民の意見が計画の「重点化」に生きています	p.3
	【今日からできること】	今日からできる「3つのはじめかた」	p.4

トピックス

新しい「調布市環境基本計画」の期間が始まりました

「ともに守り、ともに育む
水と緑と笑顔がおりなす持続可能なまち 調布」を目指して

調布市は、市域の環境資源の保全・活用について、これからの10年に向けた「調布市環境基本計画」を新しくまとめました。調布市には多摩川・野川の水辺、深大寺界隈の豊かな緑、暮らしに近い公園や街路樹など、未来につなぎたい自然がたくさんあります。一方で、気候変動、資源・エネルギーの制約の問題、身近な自然や生活環境の変化など、環境をめぐる状況は日々変わっています。

このニュースレターでは、計画のポイントを「短く、わかりやすく」お届けします。①策定編はまず全体像です。②からのニュースレターで、計画の中でも特に力を入れる3つの重点プロジェクトを中心に、暮らしとつながる形でご紹介していきます。



まず押さえない3つのポイント

① 10年の道しるべです

計画では、基本理念、将来像、目標、取組などが整理されています。何を目指し、何を、どう点検していくかが示されています。

② 市民の意見が土台になっています

計画策定に当たって実施した市民意識調査では、地球温暖化への危機感が特に高く、次いで食品ロスや緑の減少に対する危機感が挙げられました。残したい身近な自然としては、多摩川・野川、深大寺界隈が多く選ばれています。こうした意見が、計画づくりに反映されています。

③ 「私にできること」が見える計画です

ごみの分別やエコバッグの利用など、すでに多くの方が取り組んでいることもあれば、再生可能エネルギーの導入や自然を守る活動への参加など、始めるきっかけがつかみにくいこともあります。計画では、情報提供や参加の場づくりも含めて、取り組みやすい形を整えていきます。



計画の全体像

環境基本計画は全体の地図です

環境基本計画は、調布市が環境に関して進める取組を、総合的・計画的に推進するための基本となる計画です。調布の環境の特性を踏まえながら、基本理念、目指す環境の将来像、目標、施策、主な事業、推進体制や進行管理の考え方を一つにまとめています。環境分野の「マスタープラン」として、市の他の関連計画とも整合を図り、連携しながら進めていきます。

●対象は「身近なところ」から「地球規模」まで

環境というと、遠い話に感じる方もいると思いますが、皆さんの周囲にある水、緑、空気など、私たちの生存に欠かせない無くてはならないものです。

環境基本計画は、自然環境、都市環境や生活環境、脱炭素、資源循環、そして学びや協働について、調布のまち全体を、環境の視点でより良くしていく枠組みです。

●基本理念と目指す環境の将来像

計画が掲げる基本理念は「**持続可能な地域社会の存続を図りすべての生き物が共存する地球環境を将来世代に引き継ぐ**」
そして目指す環境の将来像は、「**ともに守り、ともに育む水と緑と笑顔がおりなす持続可能なまち 調布**」です。

将来像の実現は行政だけでも、市民だけでもできません。皆さんの暮らしの中の小さな選択と、地域の取組、事業者の工夫が重なって、将来像が形になります。



●5つの基本目標と25の施策

目指す環境の将来像の実現に向けて、計画では5つの基本目標を掲げ、その中で9つの施策の方針と25の施策を整理しています。

基本目標は次のとおりです。

1. いのちが息づく水と緑のまち
2. 快適さと美しさが調和する住みよいまち
3. ゼロカーボンシティが実現するまち
4. 資源循環により環境負荷を低減するまち
5. 学び合い行動し合う共創のまち

●重点プロジェクト（特に力を入れる3本柱）

25の施策の中でも、現状や社会の変化を踏まえて特に重視するものを「重点プロジェクト」として位置付けています。

- ①水と緑でつなぐ グリーンインフラプロジェクト
- ②みらいへつなぐ ちょうふ ゼロカーボンプロジェクト
- ③つながる力がまちを変える 市民協働プロジェクト

市民の意見→反映→できること

市民の意見が計画の「重点化」に生きています

今回の計画づくりでは、市民意識調査やワークショップなどを通じて、多くの市民の意見が集められました。大切なのは、これらの意見を計画の中で「何を強めるか」「どこに力点を置くか」に結びつけることです。

ここでは、皆さんからの意見を計画に反映させた例を3つご紹介します。

例1：将来に残したい自然
→ 水と緑を守り育てる柱へ

「将来に残したい調布の特色」として、多摩川・野川の水辺や深大寺界隈が多く挙げられています。こうした意見は、調布らしさの核がどこにあるかを教えてください。

計画では、水と緑を単に守る対象としてだけでなく、暑さ対策や防災・減災などにもつながる基盤として捉え、まち全体の価値を高めていく考え方が整理されています。

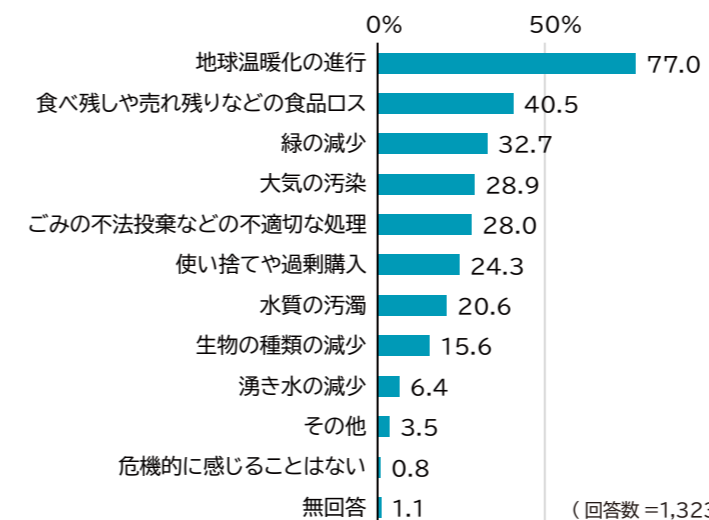
例2：地球温暖化への危機感
→ 脱炭素の取組強化へ

環境問題の中で「地球温暖化の進行」に危機感を感じる方が特に多くいました。こうした結果を受けて、脱炭素化に向けた取組を強化していく考え方が整理されています。

意識調査で寄せられた市民の意見

■危機に感じている環境問題

「地球温暖化の進行」が最も高く、回答者の77%に上りました。



また、取組を後押しするために、ライフスタイル転換を促す情報提供や支援、目標の進み具合を見える形にして周知するといった方向性も示されています。

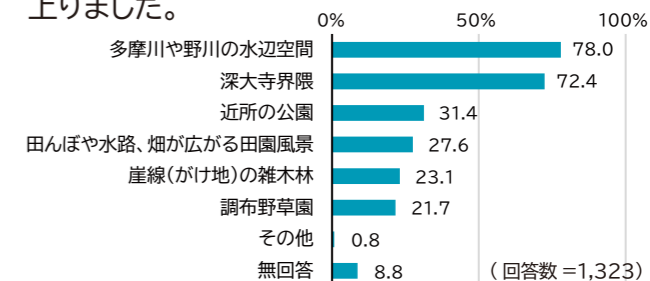
例3：「参加したいけれど…」
→ 参加しやすい仕組みづくりへ

環境活動については、「参加したことはないが、機会があれば参加したい」という意見が多くありました。一方で、参加しない理由として「時間がない」「一人では参加しにくい」「情報がない」なども挙げられています。

計画では「つながる力」を大切に、参加の入口を増やしていくことが重点の一つになっています。そのための場づくりについても整理されています。

■残したい調布の環境

多摩川・野川、深大寺界隈で回答者の77%に上りました。



■この1年間に参加した環境保全に関する活動等

「参加した」は回答者の1割以下でした。

